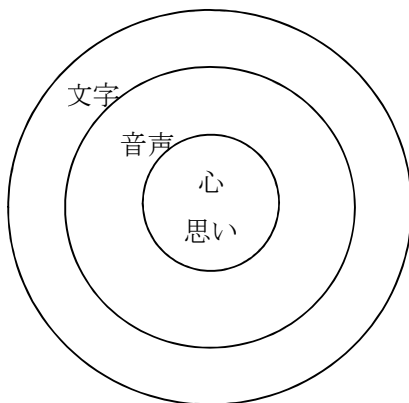


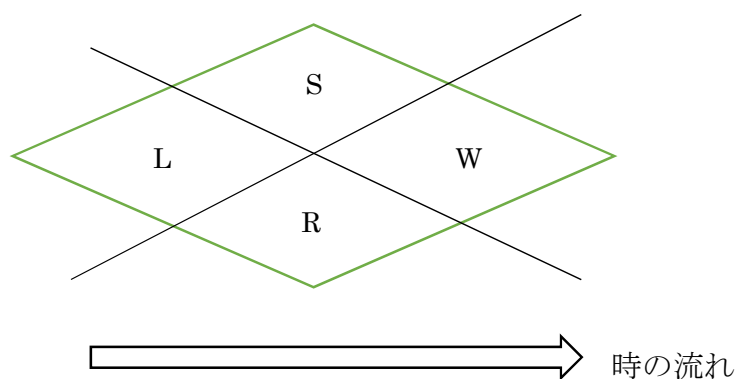
これからの小学校外国語教育～児童・教員にとって本当の楽しさとは～

0. 言葉の姿・丸いものさし



- ・意味と音の結びつき → 音と文字の結びつき
- ・意味と音が結びつけやすい豊かな言語経験を
- ・ゲーム一辺倒の危険性

1. 4技能のとらえ方（基本形）



- ・音から文字、受信から発信の順序には抗えない
- ・10年にわたる公教育での英語教育を下支えするのは、小学校での「音声による受信」

- ・ヒトは必ず耳から入った音の影響を受けて発話する
- ・発話・筆記の前に大量の受信が絶対条件
- ・耳から入ったことを目からも入れる＝音と文字のつながり

（「文字と音」ではないことに注目）

2. 音声の役割 その恐ろしさを骨身に

- ・意味内容を聞き手に届けてしまう
- ・その言語が持っている音の流れを聞き手に届けてしまう
- ・その言語が持っている文法を聞き手に届けてしまう

3. 新しい英語教育の姿

- ・3・4年生 → 5・6・1・2・3・1・2・3年生
- ・文字言語の導入
- ・英語表現の広がり（三人称・過去形）

4. 教師にとって「楽しさ」を考える

- ・子どもが変わっていくのを見られること
- ・負担が大きくないこと
- ・今より自分も英語が好きになったり上手になったりすること

5. 児童にとって「楽しさ」を考える

- ・発達段階にあった楽しさ 本当にゲーム？本当に勝ち負け？
「前よりわかる」「前よりできる」「なるほどね」
- ・英語でもわかった！ 自力でわかった！
- ・英語でもわかってもらえた！ 聞いてもらえた！
- ・自己有用感って、安い誉め言葉で生まれる？